

古川美術館 PRESS RELEASE

2025年9月

人を描き、祈りを紡ぐ
90年のまなざしが映す
美と魂のキセキ

藤森兼明、90歳の節目を迎えた画家の創作の歩みを「人の姿」と「祈りの美」の2つの柱、10の視点から紡ぐ特別展。

初期作品から祈りをテーマにした代表作までを網羅し、中世彩飾写本『ブシコー派の画家の時禱書』との共演も実現。

ビザンチン美術や写本に着想を得た荘厳な絵画と、家族や友人を描いた温かな人物像が織りなす、時を超えた祈りと美の物語をぜひご堪能ください。

- ◆ 本画22点、デッサン数十点の藤森作品、藤森コレクション多数公開！
- ◆ 必見：中世彩色写本との共演！
- ◆ 初公開：高校時代、父と共に歩きスケッチした思い出の絵

【お問い合わせ】 古川美術館

〒464-0066 名古屋市千種区池下町2 - 50

☎ 052-763-1991

担当学芸員 小柳津 綾子（おやいづ） HPはこちら↓

(a_suzuki@furukawa-museum.or.jp)

<https://www.furukawa-museum.or.jp/>



卒
念
寿

古川美術館特別展 藤森兼明 祈りの輝き — 10の視点から紡ぐ物語

2025年
10月25日[土]
▼
12月21日[日]

古川美術館

【主催】公益財団法人 古川知栄会
【特別協賛】東海東京証券株式会社
【後援】愛知県教育委員会、名古屋市教育委員会、
中日新聞社、CBCテレビ、東海テレビ放送、
スターキャット株式会社



『アドレシオン オブ マキ』(部分) 2020年 古川美術館蔵

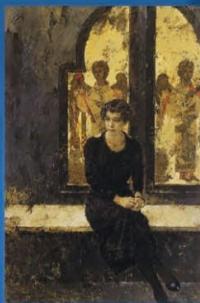


『ブシコー派の画家の時禱書』(より)『マキの礼拝』(部分) 1412年頃 古川美術館蔵

特別公開
『ブシコー派の画家の時禱書』



『アドレシオン ヲン パンタサ』
2001年
高山美術館蔵



『ビザンチンの暁』1993年
古川美術館蔵

◆ 展覧会構成 ◆

「人の姿」「祈りの美」を柱として、 《10の視点》で藤森の画業を綴る回顧展

1 《美術学校時代》

高校時代は、屋外で写生をし、家では家族の像を描きました。「祖母の像」と、未発表作を展示。初出品作「不動明王石像」は、画家になることを応援してくれた父と歩いた峠道でスケッチした思い出の作品です。

「祖母の像(藤森すず)」
1953年 25F
砺波市美術館蔵



2 《ブランクの時代

アメリカ駐在・二足のわらじ》

22歳～39歳

大学卒業前の父の死により、無給の助手をあきらめて就職。約10数年間の画業の中断期に、妻を描いた小作品と、家族を描いたデッサンなどを紹介



「征子の像」1971年
12F 砺波市美術館蔵



息子 1967年
古川美術館蔵



娘 1971年
古川美術館蔵

3 《画家としての再出発～

室内女性》39歳でのリスタート

仕事を辞め、大学時代の恩師・高光一也に相談し、日展に再出品した時期の室内女性像。画風には、高光一也の影響が見られます



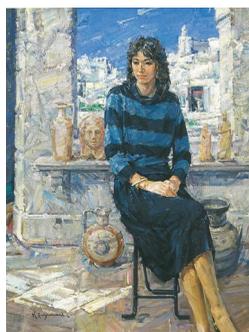
「追憶」1975年
80F 古川美術館蔵
第61回光風会展
(光風奨励賞)

「憩いのひととき」
1977年 100F
富山県美術館蔵
改組第9回日展

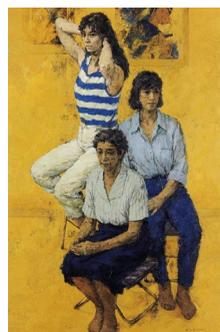


4 《テーマ探求～祈りと願い》

1980年代から「祈り」をテーマとして、女性像とキリスト教の聖像を組み合わせた画面を模索。群像や裸婦、色の効果的な配置など、様々な試みが見られます



「エーゲのテラス」
1983年 80F
砺波市美術館蔵
第69回光風会展(新藤繁賞)



「女の季」1988年
120F 砺波市美術館蔵
改組第20回日展



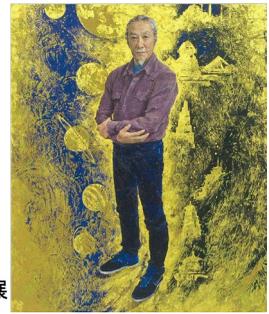
「ALLEGORY」
1992年 80F
富山県美術館蔵

5 《アーティスト喜多郎の世界観

～古川美術館での出会い》

古川美術館での世界的な音楽家・喜多郎との交流を経て、芸術家として尊敬しあう間柄となります。喜多郎の深い精神性と世界観を描き上げ、日展に出品した意欲作。

「喜多郎
シルクロード
から天空への
オマージュ」
2016年 130F
古川美術館蔵
改組新第3回日展



6 《『ブシコー派の画家の時禱書』～古川美術館での出会い》

トピック1

完本として残る世界的な貴重な中世フランスの写本『ブシコー派の画家の時禱書』公開。同時禱書をテーマとした藤森作品2点をあわせて展覧。

7 《藤森スタイル～アドレーションシリーズ》

トピック2

藤森兼明の代表的テーマである「祈りの美」を、ビザンチン美術の荘厳な様式と現代の女性像とを組み合わせる精神性の高い藤森スタイルが完成。2001年以降は、敬慕を意味する「アドレーション」と題に付けています。

8 《藤森スタイル～マニスクリプトシリーズ》

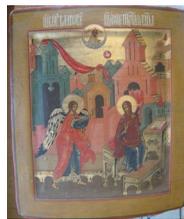
トピック2

2017年以降、藤森は「マニスクリプト」と題して、中世カトリック教徒の祈りが生み出した彩飾美の世界である彩色写本をテーマとした作品を続けて発表します。藤森作品と、その創造の源泉となった中世彩色写本（ファクシミリ版）を、あわせて展示します。

9 《藤森コレクション

～創造の源泉》

藤森兼明のコレクション、取材写真を公開！中世キリスト教の聖堂への巡礼、正教会のイコン（聖像）の深い輝きと精神性は、藤森作品の創造の源泉。



イコン



天使のフレスコ画



聖堂内写真



藤森兼明コレクション棚（参考）

10 《デッサン～表現の手跡》

トピック3

古川美術館所蔵の藤森兼明の1500点以上のデッサンは、学生時代からテーマの探求期である1990年代までが大半を占めています。その中から、油彩の完成作と照らし合わせられるデッサンを紹介（完成作である油彩画は、数点を除き、キャプション画像で紹介）。

600年前の彩飾写本との共演 — 特別公開『ブシコー派の画家の時禱書』

『ブシコー派の画家の時禱書』（1412年頃）は、金と鮮やかな色彩で描かれた中世の至宝であり、美術史的価値が非常に高いものです。その美に触発された藤森作品2点との同時展示は、600年の時をこえて、中世の祈りと現代女性が響きあう特別な空間です。



藤森兼明
「アドレション オブ マギ」
2020年 130F
※第106回光風会展出品予定であったが、
コロナ禍により開催中止



『ブシコー派の画家
の時禱書』より
「マギの礼拝」1412年頃
古川美術館蔵



藤森兼明
「アドレション エジプトへの逃避」
2021年 130F
第107回光風会展



『ブシコー派の画家
の時禱書』より
「エジプトへの逃避」
1412年頃 古川美術館蔵

世界的に貴重な彩飾写本『ブシコー派の画家の時禱書』 5年ぶりの特別公開！！ 1412年頃 古川美術館蔵 ※ページ替え情報

*1期目
10/25(土)-11/13(木)
「エジプトへの逃避」



*2期目
11/14(金)-12/3(水)
「マギの礼拝」



*3期目
12/4(木)-12/21(日)
リクエスト投票で決定！



藤森が描いた二つの場面 1期・2期目で公開！

3期目は、10/25—11/24に来館者、及びWeb（ホームページ参照）によるリクエスト投票を行い、公開ページを決定！

トピック2

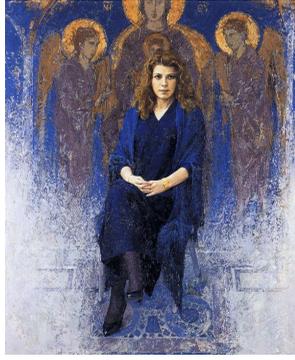
藤森スタイル「祈りの美」と現代女性像の融合 聖（イコン・永遠なる精神性）と俗（女性・限りある生の輝き）の対峙

藤森スタイルの「祈りの美」は、ビザンチン美術や中世の彩飾写本の荘厳な様式と現代の女性像とを組み合わせる精神性の高い作品。「アドレクション」シリーズや「マニスクリプト（写本）」シリーズに続いて、近年は、ポンペイの遺跡をテーマとした作品も制作。

「アドレクション」シリーズ



「ビザンチンの光」
1991年 120F
砺波市美術館蔵
第77回光風会展(つばき賞)



「アドレクション・パンタナサ」
2001年 130F
富山県美術館蔵
改組第33回日展(会員賞)



「アドレクション・デミトリオス」
2004年 130F
砺波市美術館蔵
改組第36回日展(内閣総理大臣賞)



「アドレクション マイケル エガブリエル」
2013年 130F
砺波市美術館蔵
改組第45回日展

「マニスクリプト」シリーズ

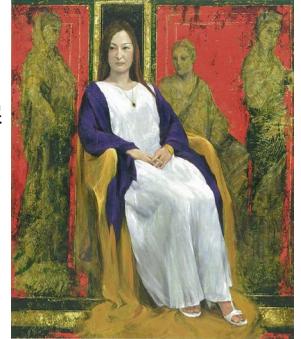


「マリー・ド・メディス
マニスクリプト
へのオマージュ」
2018年
130F 個人蔵
第104回光風会展



「黒のマニスクリプト
へのオマージュ」
2018年 130F
古川美術館蔵
改組新第5回日展

「ポンペイの遺跡」



「ポンペイ秘儀荘
への想い」
2023年 130F
個人蔵
第109回光風会展

トピック3

デッサンから読み解く軌跡 完成作が分かるエスキースを紹介

古川美術館蔵の藤森兼明デッサンは、1500点以上！

「学生期」「空白期」のデッサンは、本画（油絵）が少なく、貴重な資料。

また、完成作が分かるエスキースは、藤森の制作プロセスをリアルに感じられます！

◆完成作画像はキャプション紹介◆



「装う」1974年
のエスキース
古川美術館蔵

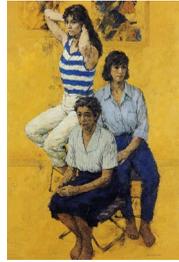


「女の構図」1980年
のエスキース
古川美術館蔵



「エトルリア追想」
1979年のエスキース
古川美術館蔵

◆完成作（油彩）とともに展示◆



「女の季」
1988年 120F
砺波市美術館蔵
改組第20回日展



エスキース
古川美術館蔵



「アンジェロ・アズレー
ジョ」1990年 120F
砺波市美術館蔵
第76回光風会展



エスキース
古川美術館蔵

<藤森兼明 略歴>

- 1935年（昭和10） 富山県砺波市庄川町に生まれる
- 1958年（昭和33） 金沢美術工芸大学油絵科卒業
在学中、日展・光風会展入選
- 1959-63年（昭和34-38） 工芸会社に入社し、5年間アメリカに滞在
- 1964年（昭和39） 住所を砺波市庄川町から名古屋市に移す
- 1974年（昭和49） 日展再出品
- 1975年（昭和50） 光風会展再出品・奨励賞受賞（1999年までに計8回受賞）
- 1980年（昭和55） 第12回日展特選受賞（同1984年）
- 1989年（平成元） 1988年度愛知県芸術文化選奨文化賞受賞
- 1991年（平成3） 光風会展つばき賞受賞（評議員賞）
- 1995年（平成7） 第27回日展審査員就任（計6回就任）
- 1996年（平成8） 日展会員就任
- 1999年（平成11） 光風会展田村一男記念賞受賞（評議員賞）
- 2001年（平成13） 第33回日展会員賞受賞
- 2002年（平成14） 紺綬褒章受章（計3回受賞）
- 2004年（平成16） 第36回日展内閣総理大臣賞 光風会理事就任 日展評議員就任
- 2008年（平成20） 日本藝術院賞 日本藝術院会員就任 日展理事就任
- 2009年（平成21） 光風会常務理事就任 日展常務理事就任 中日文化賞受賞
愛知県教育文化功労者
- 2013年（平成25） 古川美術館「藤森兼明—祈りの美 イコン・彩飾写本とともに」
- 2014年（平成26） 富山県立近代美術館「藤森兼明展 永遠の祈り」
日展副理事長就任（～2016）
- 2016年（平成28） 紺綬褒章受章2回（計5回受賞）
- 2017年（平成29） 古川美術館「藤森兼明—一人を魅せる技—」
- 2018年（平成30） 日展副理事長就任（～2020）
- 2020年（令和 2） 日展顧問就任 光風会理事長就任
古川美術館「洋画家 藤森兼明VS華麗なる中世彩色写本」
- 2021年（令和 3） 文化庁長官感謝状授与
- 2023年（令和 5） 旭日中綬章受章



現 在 名古屋市在住 日本藝術院会員 日展顧問 光風会理事長

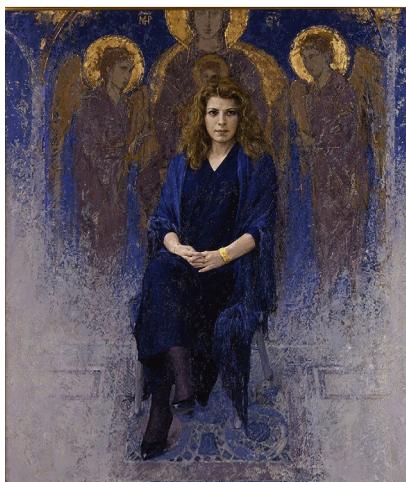
◆広報画像 キャプション(下記画像)



藤森兼明「アドレーション オブ マギ」
2020年 130F(194×162cm)
古川美術館蔵



『ブシコー派の画家の時禱書』より
「マギの礼拝」1412年頃
古川美術館蔵



「アドレーション・パンタナサ」
2001年130F(194×162cm)
(改組第33回日展(会員賞))
富山県美術館蔵



「アドレーション・デミトリオス」
2004年 130F(194×162cm)
改組第36回日展(内閣総理大臣賞)
砺波市美術館蔵



「征子の像」 1971年
12F(60.6×50cm)
砺波市美術館蔵

※本紙掲載の他の作品も広報画像としてご用意できます。
※作品をご紹介、ご掲載いただける場合は、メールにてデータ送付させていただきます。
お手数をおかけいたしますが、下記までご依頼いただきますようお願い申し上げます。

【お問い合わせ】 公益財団法人 古川知足会 古川美術館・分館 爲三郎記念館

電話 052-763-1991

〒464-066 名古屋市千種区池下町2丁目50番地

アクセス 名古屋市営地下鉄 東山線「池下」駅より徒歩3分

ホームページ <https://www.furukawa-museum.or.jp/> ➡



おやいづ

古川美術館 担当学芸員 小柳津 綾子(a_suzuki@furukawa-museum.or.jp)